

## 奥飛騨 高原川 沢上谷

2012年7月8日(日) 曇り

L: 磯部S、ヤマメ、岩倉、太箸、福嶋、川村、磯部N、池田T(記)

『沢登り好きを増やそう！ 第2弾』ということで、初心者を変えて比較的易しい（1級上）沢上谷（そうれだに）を遡行した。

美しいナメ滝の「一郎七郎滝」、迫力ある直瀑の「岩洞滝」、巨大スラブの「蓑谷大滝」、どこまでも続くナメ床と見どころが多かった。

梅雨時とあって水量が若干多かったり、高巻きの下降が崖のように急だったりしたが、皆で協力して乗り越えた。

とても充実した沢山行だった。



国道471号線から高原川を渡り、県道89号線に入るとすぐに『工事中につき通行止』の看板が・・・  
ご丁寧に鎖を張って鍵を掛けてある。

仕方ないので車を道路脇に停めて入渓点まで約4km・1時間歩く。予想外のロスだった。



やっと沢上谷に入溪。水量は若干多めようだ。



入溪して約30分後、左岸に約12mのナメ滝が入ってくる。五郎七郎滝を見に行くためにはここを越えなければならない。

川村さんは直登したが他のメンバーは無難に左の巻き道を登った。





これが五郎七郎滝。水流が糸というか、レースの織物というか、とにかくこんな美しい滝は始めて見た。

上部から入る2方向からの流れがここで合流している。  
写真では全容を伝えきれない。一見の価値あります。



白い糸の正体は泡の筋だった。  
岩の表面の凹凸が泡を発生させるのであろうか？  
不思議な光景だった。





こちらは岩洞滝。地味な落ち口の支流の奥にこんな立派な滝があるとは思わなかった。



滝の裏側にまわったメンバー。





先の2つの滝は支流の滝であるが、こちらは本流にかかる蓑谷大滝。巨大なスラブに白い水流がかかる。

滝の両側は切り立っているので登るのは無理。  
左岸から山に入って高巻いた。踏み跡は概ね明瞭であった。



高巻きの斜面を登りきると小径に出る。岩壁に沿って歩いていくと左手側に赤テープがあり、そこからガケのような急斜面を下って本流に戻った。  
残置ロープはあったが、万全を期すために持参したロープを出して懸垂下降した。

沢に降りる所は水流が強く、万一流されると大滝に落ちてしまう恐れがあったのでロープを張って渡渉した。



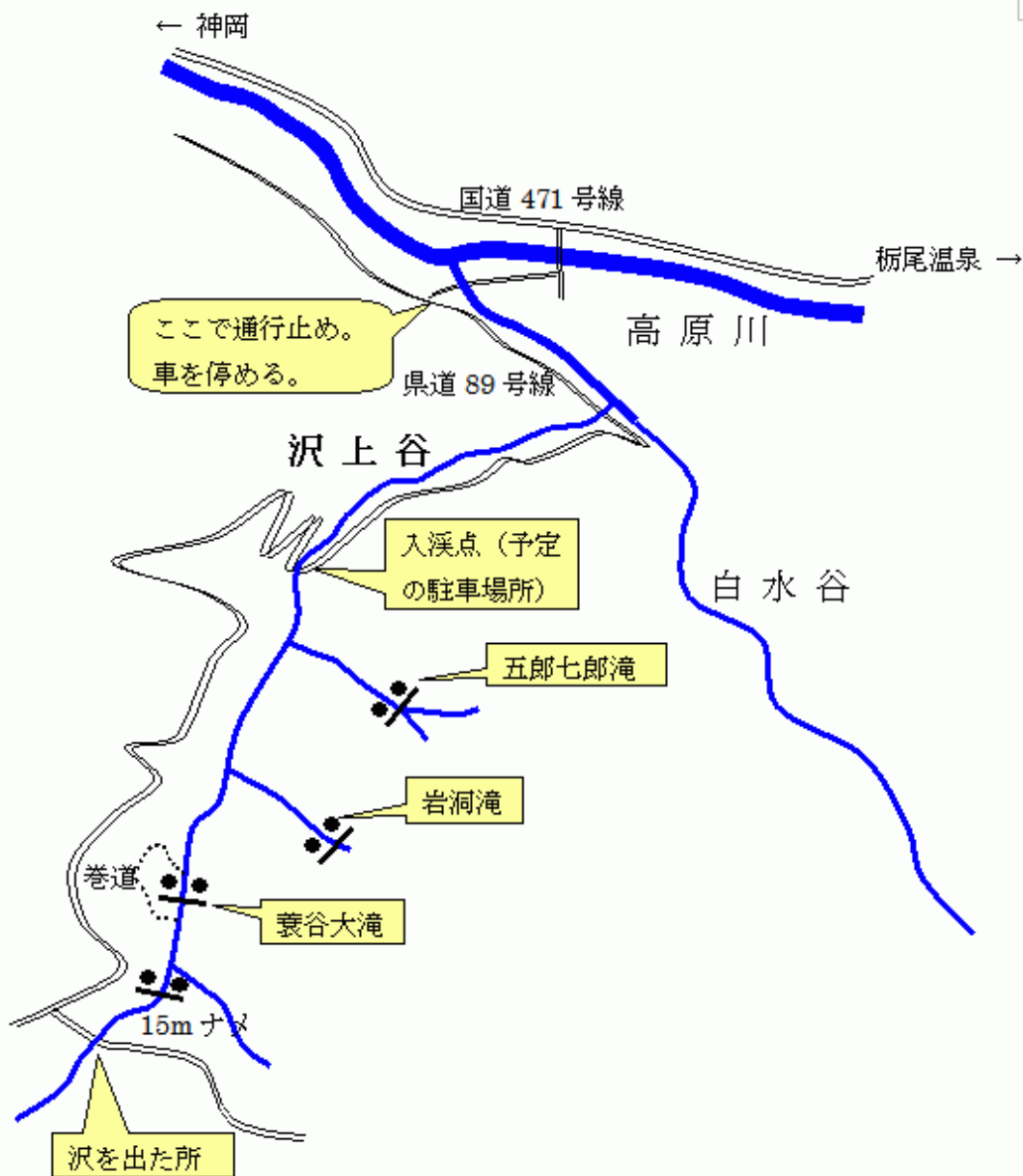


ずっと続くナメ床。  
癒しの空間であった。



やがて二俣に出会う。本流である右俣には15m程度のナメ滝。  
滝の左岸には残置ロープがあり、それを手がかりにして直登した。

この後、さらにナメ床が続き、林道の橋にぶつかった所で沢を出た。  
駐車場所が遠いので約2時間の道路歩きになったが、暗くなる前には車に戻ることが出来た。



<タイム> 県道89号線ゲート8:00 – 入渓9:45 – 五郎七郎滝10:35 – 岩洞谷12:15 – 蓑谷大滝13:35 – 遡行終了16:05 – ゲート18:40

以上